



きらきら Eyeランド
JA庄内みどり

安全・安心をお届けいたします

グリーンプロジェクト情報 第9号

発行：庄内みどり農業協同組合
協力：酒田農業技術普及課

こまめな水管理が重要！！ 圃場を確認し根の活力維持に努めましょう

7月8日現在の生育状況は平年に比べ「草丈は長く」「茎数は少なめ」「葉色は薄い」「葉齢は平年並～やや早い」となっています。
仙台管区気象台の向こう1カ月予報（7月14日発表）によると、気温は高いと予想されています。水管理を効率よく行うために、こまめに作溝の手直しを行いましょう。
間断灌水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。斑点米カメムシ類の増殖および活動が活発になると推測されます。畦畔・農道・休耕田等で雑草の多いところで増殖しますので、地域を挙げた一斉除草で生息密度の低減を図りましょう。

◎現在の生育状況（7月8日現在の生育診断圃データ）（ ）内は平年対比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉色 (SPAD 値)
は え ぬ き	64.3 cm (113)	563 本/m ² (84)	10.9 (+0.7)	40.1 (-0.5)
つ や 姫	65.4 cm (114)	470 本/m ² (93)	9.6 (-0.5)	40.1 (-2.4)
雪 若 丸	62.0 cm (117)	631 本/m ² (87)	10.7 (+0.2)	44.3 (-0.8)

出穂期予測（平坦部）…各地区の現地巡回調査による。

ふくひびき	ひとめぼれ	雪若丸	はえぬき	つや姫
7/26~31	7/30~8/3	7/31~8/4	7/31~8/4	8/6~10



つや姫・雪若丸情報コーナー

気象変動に負けない！庄内みどりのつや姫・雪若丸



○適切な水管理で品質・食味の向上を！

雪若丸は8月2日頃、つや姫は8月8日頃の出穂期となる見込みです。中干し後も花水（出穂）の時期までは間断灌水を実施し、土壌を酸化的に維持し、根の伸長や発生促進に努めましょう。

技、其の一 水管理の徹底を！

1. 圃場が乾いていない場合は作溝の手直しを行い、できるだけ圃場を乾かすことを優先しましょう。（出穂直前まで）
2. 十分に乾いた圃場から、2湛2落（間断灌水）の水管理を行い、土壤水分が不足しないよう注意しましょう。（落水時にも作溝に水が溜まる程度）
3. 出穂前14～7日（7月下旬）に平均気温20℃以下の低温が続くと障害型不稔が発生する危険があります。低温時には一時的に深水管理（水深15cm）を行い、稲体・幼穂を保護しましょう。
4. 出穂から穂揃い期（7日間程度）までは、開花・受精に十分な水分（花水）が必要になります。開花期は湛水状態とし、穂揃い期以降は土壤水分に応じた間断灌水へ移行しましょう。
5. 出穂後、高温・強風（フェーン現象）に遭遇すると白穂や枝梗枯れ等が発生しやすいので、天気予報を注視し事前に湛水するなど、稲体を保護しましょう。

技、其の二 カメムシ対策はこまめな草刈りと雑草除去を！

7月7日付で病害虫防除所から斑点米カメムシ類の発生速報が発表され、発生量が急増しているとされています。

出穂期になると畦畔・農道・休耕田等から水田内への飛来侵入が多くなります。

カメムシ対策は、適切な薬剤防除と、圃場周辺の「こまめな草刈り」と「圃場内の雑草（ヒエ、ホタルイ等）の除去」が重要です。草刈りは、8月上旬の無人ヘリ防除前までに刈り終えるようにしてください。

その後、8月末までは行わないようにしましょう。



一斉草刈デー【7/23(土)～25(月)】

技、其の三 こまめな圃場巡回で病害虫の早期発見を！

いもち病は早期発見に努めることが重要です。葉色の濃い圃場や過繁茂の部分を観察し、上位葉に葉いもちが確認されたら、直ちに追加防除を実施しましょう。

また、紋枯病の発生は「平年並み」と予想されています。前年発生が多くみられた圃場や、例年発生の見られる圃場では、圃場を良く観察し、発生が確認される場合は穂ばらみ後期または出穂期に防除しましょう。

● 稲こうじ病の防除時期です。例年発生が確認される圃場では、下記薬剤で対応しましょう。

薬剤名	10 a 当り使用量	使用時期（出穂期8月3日の場合）
モンガリット1 ^キ 粒剤	1 k g	出穂前14日（7月20日頃まで）
ブラシン粉剤DL	4 k g	出穂前10日（7月24日頃まで）
Zボルドー粉剤DL	4 k g	出穂前14～10日（7月20～24日頃まで）

※Zボルドー粉剤DLは、葉が濡れている時や出穂期近くに使用すると薬害の恐れがありますので、必ず出穂10日前までの葉が乾いているときに使用してください。

◎ 令和4年度 粉剤防除計画

一斉防除時期	防除薬剤名	使用量/10a	対象病虫害名
7月下旬 (穂ばらみ後期)	ノンブラストレバリダ粉剤 DL	4kg	いもち病、紋枯病 カメムシ類
8月上旬・中旬 (穂揃期まで)	ダブルカット K 粉剤 DL	3~4kg	いもち病 カメムシ類
8月中・下旬 (乳熟期)	キラップ粉剤 DL	4kg	カメムシ類、ウンカ類、 イナゴ類

※粉剤（粒剤）防除の場合

1. 各地区の防除計画に基づき、必ず一斉防除期間内での実施をお願い致します。
2. 農薬の使用時には、農薬の使用基準を順守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないように十分留意してください。
3. 特別栽培米は計画された薬剤以外は使用できませんので、必ず各営農課へご確認ください。

技、其の四 こんな稲は倒伏軽減の対策を

ひとめぼれ 出穂12日前の生育（7月20日頃）

危険度	草丈 (cm)	葉色	対 策
中	73~75 cm	4.8 以上	倒伏軽減剤 2kg/10a 施用
大	76 cm 以上	4.8 以上	倒伏軽減剤 3kg/10a 施用

【倒伏軽減剤の使用について】

出穂の20~10日前に倒伏軽減剤を使用する場合は、スマレクト粒剤またはロミカ粒剤を使用しましょう。特別栽培米および飼料用米には使用できませんのでご注意ください。スマレクト粒剤の重複散布や多量散布は、後作物や次年度の作物に影響する場合がありますので使用量に注意しましょう。

当面の大豆管理対策

今年は播種時期の雨の影響で生育差があります。適切な管理で高品質・安定多収を目指しましょう。

1. 生育確保対策

- ・開花前に株元までしっかりと仕上げ培土を実施しましょう。
- ・大雨により圃場内に停滞水が発生した場合には、すみやかな排水とともに、排水路の点検・手直しを行ない今後の降雨に備えましょう。
- ・葉色が薄い圃場では、培土前に必ず尿素 10kg（現物量）/10a 等の追肥を実施しましょう。

2. 雑草対策

大型化する雑草（タデ類、オナモミ、シロザ等）は早めに抜き取りましょう。放置すると害虫の発生も多くなり、コンバイン収穫にも支障をきたします。良質大豆を生産するために、早めに除去しましょう。

3. ジャガイモヒゲナガアブラムシ対策

アブラムシは、気温が高くなると8月以降に発生が多くなることがあるので、注意深く圃場を見回って、早期発見に努めましょう。

園芸情報

ケイトウの栽培管理

~密植して、少肥で茎を細く、硬く仕上げるのがポイント~

ほ場準備	施肥量 (kg/10 a) 窒素 5~10 : リン酸 5~10 : カリ 15~30 ※肥料分が残っている圃場では半分を基肥とし、様子を見て追肥。 ー施肥例 (砂丘地) ー ・有機&エイト 100 kg/10a ※上記窒素成分量の8割を基肥とした場合 ・ケイ酸カリ 50 kg/10a ・苦土石灰 60 kg (pH 5.5~6.5になるよう調整)
裁植様式	株間 10~12 cm、条間 10~12 cm、6 条
は種育苗定植	発芽適温 : 25°C { 盆出し...5月下旬~6月上旬は種 (直まき) 彼岸出し...6月下旬~7月上旬は種 (直まき) コート種子を利用。 直播栽培 : 1か所に2粒は種し、発芽約1ヵ月後に間引いて1本にする。 移植栽培 : セルトレー (200穴) の1穴に2粒は種し、発芽揃い後に間引いて1本にする。本葉3~4枚 (は種後1ヵ月程度) で定植する。
灌水	は種後は乾かないようにこまめに灌水する。発芽揃い後は徐々に灌水量を減らす。その後は乾燥気味の管理とし、生育が過度に旺盛になるのを防ぐ。
追肥	開花期に下葉がわずかに黄ばむ程度に管理する。葉色を見て必要であれば、発蕾後に窒素 (硝酸態主体) とカリ成分を含む液肥で追肥する (ピーターズ 15-11-29 または OK-F-3)。
ネット張り	草丈 20~30 cm になったらフラワーネットを張る。
病虫害防除	立枯病、疫病 (葉に病斑、地際部が軟化) → 被害株の抜き取り、土壌消毒 ハダニ類、アザミウマ類、ヨトウムシ類、アブラムシ類 → 初期防除の徹底

農薬の適正使用と空容器の処理について

- ・ 農薬を使用する場合は、使用前に農薬ラベルを確認しましょう！
- ・ 周辺への薬剤の飛散に十分注意しましょう！
- ・ 防除器具 (ノズル・ホース・ポンプ・タンク) 等の洗浄は必ず行いましょう (器具の洗浄不足により、野菜や果実の残留農薬分析で異常検出や超過検出されている事例もあります)。
- ・ 農薬の保管は、保管庫に必ず鍵を掛けて保管しましょう。又、使用済みの農薬の空容器等は、各支店・各資材店舗で年2回実施している農業用廃プラ回収日に処分しましょう。

★次号の発行は8月10日です！